

## 七夕の夜は「那波銀河橋」を渡ろう

群馬学センター 准教授 築瀬 大輔

4月に群馬学センターに着任しました築瀬大輔と申します。群馬学として地域研究と地域貢献活動を担うかたわら、日本中世史を専攻しています。どうぞよろしくお願いたします。

今日は、平成26年に利根川に架けられた「伊勢玉大橋」についてお話しします。この橋の名前は「伊勢崎と玉村を繋ぐ橋」という意味ですが、「伊勢玉」と聞いて、「伊勢うどんと温玉うどん」を連想してしまうのは食いしん坊の私だけでしょうか。確かにうどんも橋も「安くて速い」が喜ばれますね。でも、実はこの橋、旧那波郡の下之宮村と東上之宮村を繋ぐ橋と見たほうが、その歴史的意味をはるかによく理解できるのです。

下之宮とは火雷神社のことで、上之宮とは倭文神社のことで、ともに平安時代に朝廷によって公認された那波郡の鎮守神（式内社）です。式内社がこんなに至近にあるのは珍しいことです。ふたつの神社の間を利根川が流れるようになったのは室町時代のことで、おそらくそれ以前からここにはある程度大きな川

が流れていたのでしょう。両神社には渡し場の兩岸を守るという意味があったのではないのでしょうか。

戦国時代になると、利根川が東西上州、ひいては東西関東の軍事境界となりました。以来、江戸時代を通じて那波郡は政治的に分断され、明治時代に佐波郡や東西群馬郡に再編されながら消滅していきます。

さて、火雷神社のはじまりは那波八郎、その神話は中世以来連綿と語り継がれています。そして、倭文神社は織物の神さまです。そう、両神社はまるで彦星と織姫みたいじゃないですか。だから私は密かにこの橋を「那波銀河橋」なんて呼んでみるのです。そうです。伊勢玉大橋は、地域が忘れていた「那波郡」という歴史的記憶の復活に他ならないのです。

群馬学センターでは、群馬の歴史や文化財に関する一般公開授業を開講しています。群馬学とはみなさんの心の庭先にあるいくつもの「グンマ」を発見し、紡いでいく知的営みです。町民のみなさんの参加を心よりお待ちしております。

# 住民自治のまちづくり

企画課  
☎64-7711

## 平成29年度に行われた「玉村町協働によるまちづくり提案事業」を紹介します

提案事業名 玉村町の魅力見つけ隊

提案団体名 NPO法人国際ボランティア学生協会 群馬高崎クラブ

玉村町の魅力をPRする動画を作成し、町民、学生、町外に向けてWEBやSNSを通じて発信し、町の活性化につなげることを目的として、事業提案がされました。

主に県立女子大学の学生で構成された「玉村町の魅力見つけ隊」。大学に通う中で「玉村町には何もない」と言われることが多くあり、見つけ隊の学生も悔しい思いをしていました。動画作成を通じ、普段気づかなかった玉村町の魅力を発見することができたとともに、玉村町のさまざまな人とふれあい、玉村町の良さを感じました。今後も玉村町の良いところを発見できるような動画を継続して作成をしていく予定となっています。



作成された動画



動画発表の様子